

やめよ！徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

No. 4 ('96. 7. 5)

事務局 ☎ 0584(78)4119

大垣市本町2-27 FAX 0584(82)4119

☆ 公聴会について（新聞記事参照）

利水・治水・環境・災害・住民負担など、どの面からも建設中止を求める理論的根拠が十分あることが証明できたはず。建設省を対話集会に引っ張り出す準備をも進めたい。

☆ 6/27 中部電力株主総会

徳山ダム＝徳山発電所の下流に計画されている杉原ダム＝杉原発電所の湛水域にはイヌフシが繁殖している。揚水発電所は原発とセットで「必要」とされる。芦浜原発・板取ダムに取り組む人々と共に株主総会で経営者の姿勢を質した。

☆ 6/28 建設省中国地建(広島)で苫田ダム答

申受理への抗議行動 苫田ダム建設審議委員会も目茶苦茶だが、中国地建の高姿勢（市民運動など鼻もひっかけない）も相当なもの。中部地建が「進んでいる」りは何と言っても長良川河口堰の運動の成果だ。更に追撃を！

11/23・24 徳山ダム建設反対全国集会

< 7/13 第1回徳山ダム建設反対全国集会実行委員会 > 全国のダム・河口堰の反対運動の連絡組織である水源開発問題全国連絡会の総会を大垣市に招き、併せて徳山ダム建設反対の全国集会を開きます。私共の会の組織の力量を超えた試みですが、皆様のご協力を得て頑張りたいと思います。皆様方がそれぞれ様々な運動でお忙しいことは承知しておりますが、(1)月1度程度の実行委員会にご参加して頂き、地元（中部圏）の中での「徳山ダム」の浸透を図り、多くの方々の大会への参加を促して頂く (2) 当日(直前何日か)に動ける大垣市の近くの方に声をかけて頂く (3) 財政基盤を固めるためのご意見・ご提案を寄せて頂く (4) その他、色々のご意見・ご提案を寄せて頂く にご協力下さい。

(特に大垣市に近い方々をお願いしたいと存じます)

§ 徳山ダム建設反対全国集会実行委員会

への参加を要請します §

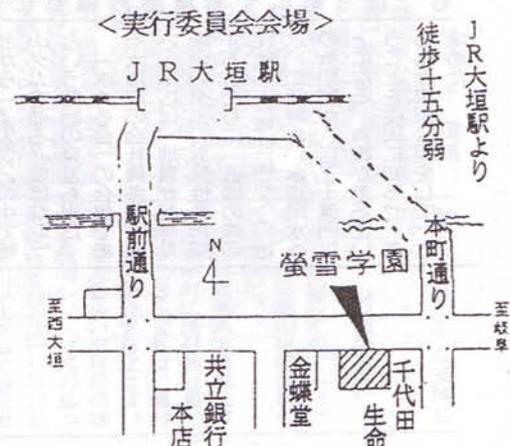
第1回実行委員会 7/13(土) 午後1時～

徳山ダム建設中止を求める会・事務局

大垣市本町2-27 螢雪学園3F

☎0584-78-4119 (午後)

82-4119 (留守・FAX)



治水、自然めぐり渦まく賛否

大垣で徳山ダム公聴会 住民が初の意見公述

大垣市で二十一日に開かれた徳山ダム建設事業審議委員会の公聴会は、同委員会が徳山ダムの建設計画について初めて、住民などの意見を聞いた。公述人十七人のうち、計画賛成は十一人、反対は六人。ダム計画の治水・利水効果、自然環境への影響などをめぐり、双方の意見がぶつかりあった。

水害の不安がなくなる 賛成派 貴重な動植物が全滅だ 反対派

賛成意見の公述人らは「治水にはダムが必要だ」と口々に強調した。西濃用水止地改良区連合に勤務する小林仁美さん(60)は「揖斐川は木曾三川(全川)高橋弘さん(60)の二入は、明治二十九年の大水害など過去に大きな水の被害を受けたことを指摘。洪水の際に役立っはずの排水機場について「ポンプが故障したり停電したりする」と指摘した。安八町地区の区長渡辺勝さん(60)は「安八町は長良川と揖斐川に挟まれ、水への不安が絶えない。揖斐川の堤防は万全と言えない」と述べた。



徳山ダムの建設について、賛成、反対の意見がぶつかり合った公聴会＝大垣市総合福祉会館で

賛成意見の公述人は「治水にはダムが必要だ」と口々に強調した。西濃用水止地改良区連合に勤務する小林仁美さん(60)は「揖斐川は木曾三川(全川)高橋弘さん(60)の二入は、明治二十九年の大水害など過去に大きな水の被害を受けたことを指摘。洪水の際に役立っはずの排水機場について「ポンプが故障したり停電したりする」と指摘した。安八町地区の区長渡辺勝さん(60)は「安八町は長良川と揖斐川に挟まれ、水への不安が絶えない。揖斐川の堤防は万全と言えない」と述べた。

洪水調節機能でも大きく対立

水で漁業を受けた被害を認めた。横山ダムの水がなくなった際の写真を見せながら「この写真を見せながら」として放流したアユの稚魚も、飛騨の宮川では八十坪近くに育ったのに、揖斐川近くには育たなかった。賛成派は「徳山ダム建設中止を求めたい」と述べた。上田武夫会長(60)は「絶滅危惧種のイヌワシが、野鳥の会の調査によつてダム周辺で十五回も確認された。オオタカも確認されている。保護のためには三年間の生態調査が必要。水資源開発公団の環境保全対策の基本方針による」と、ダム流域のうち水没するのは約五割で、自然は広範囲に残り、動植物への影響は軽微、とある。しかし、実際には、自然の動植物は百%消滅する」と述べた。徳山ダムの治水計画にも異議が出された。「求める会」の会員で学習塾教師の近藤ゆり子さん(60)は「揖斐川の治水計画は、徳山ダムの洪水調節機能に過剰に依存して示された雨量などのデータも、作爲的に選択されている。ダムは利水のために貯水している。大雨のときには放流せざるを得なくなり、各地でダムの放流が原因の洪水が起きている」と主張した。長良川河口ゼキ建設差し止め訴訟原告の村瀬聡一さん(60)は「揖斐川で昭和三十五年以降に起きた四回の洪水のうち三回は、計画高水位以下で破堤した。堤防の強度が足りない。水害はまず堤防補修で防ぐべきだ。徳山ダムでは、長雨や支流系の雨量が多いと流量調整の効果がない」と強調した。さらに村瀬さんなどから「水余りの中で徳山ダムを造る必要はない」という趣旨の発言も出た。「求める会」の会員である大垣市の会社員多和田宏さん(60)は、地震が起きた場合のダムの危険性を指摘するとともに「近隣の県の住民や流域住民らへの治水、工業用水、水道用水への負担額が八百三十億円以上になる。負担があるというところを住民に知らせ、きちんと情報公開をして」と求めた。

保つにはダムが必要だ」と語った。また、旧徳山村民の会社員井野勝己さん(60)は「ダムの完成は村民の願い。建設が遅れると、残存林が乱開発され、山が荒れて災害の原因になる。これ以上、ダム建設を遅れさせることはできない」と述べた。「徳山ダム残存山林を考える会」の植田隆さん(60)は、ダム計画には賛成としつつも「自然保護に世界的な関心が高まっている。国、県、水資源開発公団は水源の確保を目的にダム周辺の全共有林、全私有林を取得し、永久保全してほしい」と要望した。一方、建設反対の立場の公述人からは、自然環境保全のために建設中止を求める意見が相次いだ。「徳山ダム建設中止を求めたい」と述べた。上田武夫会長(60)は「絶滅危惧種のイヌワシが、野鳥の会の調査によつてダム周辺で十五回も確認された。オオタカも確認されている。保護のためには三年間の生態調査が必要。水資源開発公団の環境保全対策の基本方針による」と、ダム流域のうち水没するのは約五割で、自然は広範囲に残り、動植物への影響は軽微、とある。しかし、実際には、自然の動植物は百%消滅する」と述べた。徳山ダムの治水計画にも

治水・環境…思い込め

徳山ダム巡り公聴会

徳山ダム(岐阜県揖斐郡藤橋村)の事業計画について、建設省の「徳山ダム建設事業審議委員会」(委員長・館正知岐阜大名誉教授)は二十二日、市

水害防止に不可欠 森や田の保全が先

昨年暮れに始まった学者、自治体などからなる審議委員、地元住民の生の意見を審議に生かそうと、岐阜県民を対象に公募、十七人が応募した。

取水できる長良川河口堰も完成はしたものの、水は余っている。さらに徳山ダムの十五分について、需要、導水計画をつくった自治体はない。水利権を持つ岐阜県、愛知県、名古屋市の負担額は一十億円強になると試算されている。

利水 岐阜市加納三笠町の長良川河口堰(せき)建設差し止めの訴訟原告の村瀬悠一さん(56)は、「徳山ダムの用水供給能力毎秒十五万は名古屋水道の供給量の約一・五倍。しかも現在、岩屋ダムの水は三分の一しか使

民から意見を聞く初の公聴会を岐阜県大垣市で開いた。十七人の公述人は、推進派十一人と慎重・反対派六人にわかれ、「巨費を投じて完成しても水の使い道は全くない」「ダム建設をやめて洪水が起きたらどうする」などと、利水、治水、環境面から意見をぶつけ合った。現職の岐阜県職員が公述人として反対論を展開するなど、波乱含みの公聴会となった。

字を披瀝しながら国の計画が過大であると指摘した。毎秒十二・五万の水を取水できる長良川河口堰も完成はしたものの、水は余っている。さらに徳山ダムの十五分について、需要、導水計画をつくった自治体はない。水利権を持つ岐阜県、愛知県、名古屋市の負担額は一十億円強になると試算されている。

市といわれているが、私のな措置だが、堰の撤去には住む荒崎地区だけは、いまだに荒崎のたびに水害に見舞われる。ダム見直しの提案には憤りを覚える。同市長松町の農業古田和夫さん(68)は、地区の損壊川支流、大谷川に接する洗堰(あらいせき)と呼ばれる堰を説明した。洪水時には荒崎地区側に水があふれ、対岸は浸水を免れる一時的

利水 岐阜市加納三笠町の長良川河口堰(せき)建設差し止めの訴訟原告の村瀬悠一さん(56)は、「徳山ダムの用水供給能力毎秒十五万は名古屋水道の供給量の約一・五倍。しかも現在、岩屋ダムの水は三分の一しか使

徳山ダムができるると洪水の危険が減るため、撤去に同意してもらえろという。一方、大垣市の塾教師、近藤ゆり子さん(56)も治水の必要性は認めながら、「治水計画は過剰に徳山ダムに依存している。森林や水田を保全することこそ、治水に役立つ」。

和田宏さん(68)は「付近には、小さな活断層の域帯がある。阪神大震災では、ダム堤にひびが入ったため、水を抜いて大復旧工事をしてる例もある」と大規模な環境変化は必要としないこと、過去にもそのようにして土地を利用した

公聴会で建設反対の立場から公述した岐阜県羽島郡岐南町上印食の谷沢一興さん(68)は同県可茂土木事務所総務課に勤める。同県は建設推進の立場をとる。公述を希望した谷沢さんは、職場の上司からやめる

利水 岐阜市加納三笠町の長良川河口堰(せき)建設差し止めの訴訟原告の村瀬悠一さん(56)は、「徳山ダムの用水供給能力毎秒十五万は名古屋水道の供給量の約一・五倍。しかも現在、岩屋ダムの水は三分の一しか使

環境 「徳山ダム建設中止を求めると代表の大垣市三塚町、上田武夫さん(68)は、ダム建設の是非には触れず、野鳥保護を訴えた。「イヌワシやクマタカが複数生息していると考えられるが、営巣地が見つかった場合の保護策が決まっていなければ心配だ」。

一方、西濃用水土地改良区連合に勤務する岐阜県揖斐郡大野町寺内の小林仁美さん(68)は、治水面や利水面でダムが必要との立場から「環境の変化は必要としないこと、過去にもそのようにして土地を利用した

ように求められたほか、土い(6)膨大な建設コスト回収本部にも呼ばれて、「公団の見込みがなく財政を圧迫との関係が悪くなる」などとする、などのマイナスポイント、思いとまらぬ説得されたという。公述後、「公述するのは、しかし、谷沢さんは、別に違法でないし、せつかな自然環境が失われる(2)の信念を述べた」と話し、水資源が売れる見通しがない

利水 岐阜市加納三笠町の長良川河口堰(せき)建設差し止めの訴訟原告の村瀬悠一さん(56)は、「徳山ダムの用水供給能力毎秒十五万は名古屋水道の供給量の約一・五倍。しかも現在、岩屋ダムの水は三分の一しか使

国側のデータ調査へ 委員長の説明

審議委員会の館正知委員長は、公聴会終了後の記者会見で、何人かの公述人が指摘したデータの信ぴょう性の疑義について、重大な関心を持ったと明らかにした。この日、一同は雨量観測データが、出す資料によつて違う。(近藤ゆり子さん)、「(川の流れ方に)関係する。堰をダム建設を正當化するために操作した疑いがある」(村瀬悠一さん)など建設省のデータに疑問をぶつけた。

これについて記者から質問された館委員長は、「(公述人の指摘を)重大に受け止める。データが本当に正しいのか、(審議委員会)関連して、専門家で作った技術部会に真偽を確かめよう。数字が作り上げたものではないか建設省や水資源開発公団に説明を求めたい」と表情を険しくして話した。

また、ダム自体が地震を誘発する危険性や猛きん類の保護、水需要予想の信ぴょう性など、この日指摘のあった点についても「もっと勉強しないと判断できない。専門部会で審議していただくよう要望を返した」と述べた。個人的には、ダムに代わる治水法の代替案も議論したいという。

委員会の結論を出す時期については「専門部会の結論が出ないうちには出せない」と、議論を深める意向を示した。

徳山ダム公聴会

利水の必要性で応酬

建設省 来々早々にも結論

岐阜県揖斐郡藤橋村の徳山ダム事業計画について、建設省の「徳山ダム建設事業審議委員会」（委員長・館正知岐阜大名誉教授）は二十九日、公聴会を名古屋市内で開いた。推進派四人と慎重・反対派六人の住民が意見を述べた。昨年末に始まった審議委員会はその後、技術、環境の専門部会を本格化させる。館委員長は「一部は年内に終え、間を置かずに審議委員会の結論を出したい」と、来年早々にも結論を出す意向を示した。公聴会は二十二日に続き一度目で、九十五人が

傍聴した。今回の意見発表の中心は、利水の必要性の有無で、富樫幸一岐阜大助教授が「国は徳山ダムを含む木曾川水系の二〇〇〇年の工業用水の需要予測を一日当たり五百万リットルとしているが、一九九四年の利用実績は三百万リットルに過ぎない」と述べたのを始め、需要見積もりを批判する意見が相次いだ。

一方で名古屋市の会社経営者安藤重良氏は「大濁水を経験し、水の大切さを実感した」と、必要性を強調した。安藤氏は、同市が長

良川河口堰（せき）の建設償還金支払いなどもあって、水道料金値上げに踏み切ったことから「国庫補助率のアップなど支援もお願いしたい」とも話した。「雨水利用を進める会」世話人で、名古屋市内に住む白井章二さんは十八年間、雨水を生活用水に使っていることを紹介。「ダムに使う金の少しでも、雨水利用促進に役立ててくれないだろうか」と話した。

日本野鳥の会の丹羽宏・元岐阜県支部長は徳山ダム建設地周辺で確認されたイヌワシについて「二羽が育つ感にはたくさん生き物がいる。一羽いなくなる」と、食物連鎖に大きな変化が起きることを考えるべきだ」と主張した。

も」と書いている。徳山から移住した人の中には、移住先の団地の地盤が悪く、再移住を強いられる人もいる。こんなことが許されているのか。

日 県内の4人も熱い訴え

名古屋で徳山ダム公聴会

二十九日、名古屋市内で開かれた徳山ダム建設についての公聴会（建設省の同ダム建設事業審議委員会主催）では、公募の市民十人が意見を述べた。県内からは四人が公述に立ち、一人が賛成、三人が反対の意見

期になるとしたら、ダム問題で村を二分した議論に明け暮れた末、建設を受け入れ、移住した私たちの人生は、一体何だったのか。移住者の心が分かるのなら、ダム完成に尽力してほしい。大垣市田町、平家物語演劇会近藤正尚さん（賛成）反対

コノハズクの声が届く。アカショウビンに会えるかも
徳山村で
キャンプ
7月末又は8月初旬
問合せ先：足立 孝
058-233-5490(昼)
058-274-0620(夜)

旧徳山村の中学生が、作文に「国が決めたことなら、何でも従つたか。私たちの古里がなくなることで（影響評価）をすべきだ。